

日本語の文章を書くときには、「。」や「、」のほかにもいろいろな記号を使います。下の文章から「。」と「、」以外の記号を見つけてください。

福沢諭吉は1835年に大阪で生まれた。当時は士・農・工・商（士は武士、農は農民、工は職人、商は商人）の四つの身分がはっきりしており、生まれたときから自分の身分が定められていた。同じ身分の中でも階級かいきゅうの上下じやうげがあった。諭吉は「こんな制度は大嫌いだ。」と言って、低い身分から抜け出すために一生懸命勉強した。

1860年（25歳のとき）にアメリカに行った。このアメリカ行きによって、諭吉の目は世界に向かって開かれた。その後ヨーロッパの国々（イギリス、オランダ、ドイツ、ロシアなど）を見てまわった。そして、アメリカやヨーロッパの政治・経済・文化を紹介した『西洋事情』という本を書いた。その後、慶応義塾大学をつくったり、『学問のすすめ』という本を書いたりして、若者の教育のために力を尽くした。『学問のすすめ』のはじめに書いてある「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず…」という言葉は有名である。

日本語の文章を書くときに使う記号

1. ・(中黒、中点)

*外国人名をカタカナで書くとき、区切りを表す。

トーマス・エジソン

アダム・スミス

レオナルド・ダ・ヴィンチ

*同じレベルの語を並べてまとまりにするとき、語の区切りを表す。

市立・町立病院

国内・海外旅行

小・中・高の教育体制

2. 「 」(かぎかっこ)

* 発話部分やはっきり目立たせたい部分を表す。

- ・わたしの父は「自分でよく考えろ。」とよく言う。
- ・今は「地球の危機」なのだ。
- ・わたしはいわゆる「フリーター」である。

3. 『 』(二重かぎかっこ)

* 本の題名や雑誌の名前を表す。

- ・柳田邦男という人が書いた『人間の事実』という本の中で…
- ・出典は『暮らしの手帖』暮らしの手帖社、第4世紀33号
- ・注：ヴィクトール・E・フランクル『夜と霧』みすず書房1985年

* 「 」で囲んだ部分の中で、もう1回「 」を使う必要があるとき。

- ・「わたしの母はいつも『もっとがんばって』と言うんですよ。」と彼女は言った。
- ・山川さんは「もっと『はい』と『いいえ』をちゃんと言えられるようになりたい。」と言っていた。
- ・田中氏は「いちばんお世話になったのは『クラスのお姉さん』です。」と言っていたが、だれのことだろう。

4. () (かっこ)

* 説明をもっと詳しくするとき、または別の言葉で言い換えるとき、読み方などを表すとき。

- ・野口英世のぐちひでよが生まれたのは猪苗代湖いなわしろこ(福島県ふくしまけん)の近くの小さい村だった。
- ・メーデー(5月1日)は労働者ろうどうしゃの祭典日さいてんびとされている。
- ・百合かお(ゆり)の花はいい香りがする。



練習 2

つぎ 次の文に記号を書き入れなさい。

1

表記のしかた

1. 日本の教育制度は633年制である。
2. フリーターとはフリー英語とアルバイトドイツ語を合わせた和製外来語である。
3. 食べることを通して体と心を健全に育てようとすることを食育という言葉で表現する。
4. 夏目漱石の坊ちゃんはいろいろな外国語に翻訳されている。
5. ナノメートルの領域髪の毛の太さの1000分の1以下の領域を扱う技術がある。
6. アジアアフリカ会議が開かれる。
7. この会社にはボランティア休暇制度がある。
8. 野球は明治5年西暦1873年に日本に伝わった。
9. ガリレオガリレイは地球は回っていますと言った。
10. この本の中で著者はわたしは方言研究者ではありません。ただこの地方の方言が好きでいろいろ調べているうちに、おもしろいことがわかってきたのです。祖母がよく方言っておもしろいよと言っていたのですが、いつのまにかわたしも祖母と同じになっていましたと言っている。